

事務事業の概要							
1	事務事業名	環境教育普及事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本 裕史	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち			
		施 策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
		今後の取組	1	人と自然との調和のとれたまちづくり			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項 目					
		改 革 名					
6	予算事業名	昆虫館管理運営費					
7	事業開始年度	平成 1 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民、ボランティア、小学校					
9	事業の目的	自然環境が減少していく中で、子どもたちが自然から離れていく傾向にあります。そのため里山や水辺等の環境保全と活用を進め、命や自然の大切さを感じたり学べる拠点としてイベント等を実施し、環境教育の普及や学習機会の充実を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		学校やボランティア、地域協議会等との環境教育普及の連携を継続し、市民参加型のイベントを企画していく。また昆虫館の企画運営だけではなく、ボランティアや地域協議会からの提案や参加及び協力を募ることにより、人件費等のコストダウンを行なう。学校や地域協議会との共催も進め、体験型事業も企画しながら参加者の増加を図る。学校や周辺地域での出前授業や講座などにも積極的に取り組む。					
11	事業の内容(手法)	自然環境や生物多様性について理解を深めるため、日々の調査の成果を基に野外観察会や観察教室、講演会等のイベントを実施する。特別展や企画展については、調査研究のデータや標本等を展示し、生涯学習に虫いっぱいの里山を目指し、ボランティアグループや地域協議会と協力しながら情報発信を行う。生物多様性の保全を理解し、様々な世代が里山づくりに長く関わることができる仕組みを構築する。市内外の小学校には飼育教材を使用した出前授業の継続、公民館等への出前授業や講師派遣にも対応行っていく。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	講座受講者数(人)	1700	1700	1700	1700
	活動指標	① 観察講座開催回数(回)	35	35	35	35	
		② 特別展・企画展入館者数(人)	64000	64000	64000	64000	
	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
13	歳出(直接事業費)(a)		2,445	1,721	1,728	1,743	
	歳入(b)	受益者負担額	20	20	20	20	
		国県補助金等その他	0	0	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		2,425	1,701	1,708	1,723	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	生物多様性保全活動推進事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本 裕史	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち			
		施 策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
		今後の取組	1	人と自然との調和のとれたまちづくり			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる			
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項 目					
		改 革 名					
6	予算事業名	昆虫館管理運営費					
7	事業開始年度	平成 27 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	様々な立場の人々がお互いに協力し合って、地域固有の生物多様性を守ると共に、農業、商業、観光、交通など自然や文化等の地域特性を活かした地域の活性化につながる活動を実践し、文化財保護、自然や景観、環境の保全など飛鳥地域の豊かな生物多様性の保全再生活動を推進することを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		生物多様性保全活動を推進するため、平成28年度に策定した生物多様性飛鳥地域戦略に基づく取り組みを進めていくことにより、生物多様性を基礎とする地域固有の美しい風景やそれに基づく豊かな文化を再発見することができ、地域への誇りや愛着の感情を引き起こし、人を引く付ける地域の活力に発展する。また、自然環境を歴史・文化とともに守り活かすエコツーリズム、地場産業や地元企業のブランド力の向上など、関連を見出し地域の活性化に展開していく。					
11	事業の内容(手法)	地域資源を活用した産業の活性化、都市部と農村部との交流、地域資源の再認識によるコミュニティの再構築を進めていく。飛鳥地域の豊富な歴史的文化的遺産を背景として、豊かな自然環境を認識し、地域が抱える課題を乗り越え、地域の活性化を図っていく。地元自治会等で構成された協議会やNPO等のボランティア団体等で、地域連携保全活動となる生物多様性の保全並びに地域活性化となる事業を展開していく。					
		平成30年度からの拡充・変更内容 (予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標						
	活動指標	① 生物多様性啓発回数	5	7	9	11	
		② -	0	0	0	0	
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		7,002	1,762	1,772	1,780	
	歳入(b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		国県補助金等その他	0	0	0	0	
(a) - (b) = 一般財源		7,002	1,762	1,772	1,780		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	資料等管理事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本 裕史	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち			
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
		今後の取組	2	自然環境の情報集積・発信の拠点づくり			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	昆虫館管理運営費					
7	事業開始年度	平成 1 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	昆虫館					
9	事業の目的	昆虫資料・標本の収集と収蔵保管の充実を図り、収蔵標本の情報発信を行う。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		市内の動植物の資料の収集のため定期的に調査・研究を行う。標本資料は1点1点が貴重な情報の源であり、博物館施設の肝である。収蔵スペースには余裕があるが、標本の整理が遅れている。人員の増員が難しい中、現行の体制で少しずつ整理を進めていく。寄贈標本等については補助金を利用し、整理を行うことも検討する。整理した標本については企画展や特別展等の展示や学校団体への貸出し、出前授業等にも有効に活用していく。					
11	事業の内容(手法)	博物館業務のひとつとして、生態系の理解や保全のための生物調査を行い、採集した動植物の資料収集・収蔵業務があり重要である。貴重な資料を適正に分類保管し、収蔵資料の館内での閲覧やインターネットでの閲覧等の情報発信を進めていく。昆虫館での特別展や企画展等の展示や学校団体への出前授業、貸出し等を実施しながら、自然環境や生物多様性等の学習の機会の充実を図る。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	—					
	活動指標	① 収蔵書籍数(冊)	101850	102050	102250	102450	
		② 標本数(匹)	50050	50150	50250	50350	
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		339	339	342	345	
	歳入(b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		国県補助金等その他	0	0	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		339	339	342	345	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	生態飼育業務					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本 裕史	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち			
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
		今後の取組	2	自然環境の情報集積・発信の拠点づくり			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	昆虫館管理運営費					
7	事業開始年度	平成 1 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	昆虫館					
9	事業の目的	累代飼育を中心に生態（昆虫の生活している状況）を人工的につくり維持して飼育する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		最近では昆虫を飼育している人からの提供も多い。また他の施設にも協力を求めることにより、飼育困難な場合の受け入れの連絡態勢を工夫することで、安定した生態展示やコストの軽減につながっている。情報コーナーやミニイベントを行い、生きた昆虫と触れ合える機会を増やす。生態展示の昆虫を維持するためには、飼育体制や飼育内容の充実を図っていく。					
11	事業の内容(手法)	生態系の調査・採集等を行い、採集した昆虫に適した環境をつくり、餌も工夫するなどして与え、飼育方法についてもマニュアル化し、最も効率的な飼育方法を見つけ飼育方法を確立させる。ふれあいルームやサプライズ飼育（飼育体験）、飼育の実演等、生きた昆虫と触れ合える場をつくり、体験を通じて命の大切さを学ぶことができる機会を増やします。					
		平成30年度からの拡充・変更内容（予算措置を必要とするものに限る）					
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	—					
	活動指標	① 飼育・展示種類数（種）	95	95	95	95	
		② 年間放蝶数（匹）	11000	11000	11000	11000	
	コストの推移（単位：千円）			(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)
13	歳出（直接事業費）（a）		32,302	32,383	28,520	33,485	
	歳入（b）	受益者負担額	982	984	984	984	
		国県補助金等その他	0	0	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		31,320	31,399	27,536	32,501	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	生態系及び動植物の分布調査と研究事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課(昆虫館)	課長名	岸本 裕史	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち			
		施 策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
		今後の取組	3	虫いっぱい山里づくり			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項 目					
		改 革 名					
6	予算事業名						
7	事業開始年度	平成 1 年度	事業終了年度	平成 年度			
事務事業の実施							
8	対象	昆虫館及び地域住民、ボランティア、小学校					
9	事業の目的	職員や地域住民、ボランティア団体、小学校が協働し、昆虫をはじめとする動物や植物の生態や分布調査及び採集を行い、調査結果等を特別展や企画展、常設展示に反映し、市民(入館者)に還元する。また、動植物の生態や分布や採集した昆虫類の飼育、植物の栽培をとおして技術の向上に努める。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		市内の動植物が生息しているフィールドなど、生物多様性の基礎調査を基に調査を行う。予算軽減を考慮しつつ地域住民、地域協議会、ボランティア団体、小学校等と連携しながら生物調査を行うことにより、広範囲でデータが得られる。また自然環境や生物多様性について、保全や活用が進むことにより住民の関心が広がる。また、環境対策事業と関連させながら進める。					
11	事業の内容(手法)	大和三山をはじめ、市内に点在する鎮守の森、飛鳥川をはじめとする河川、ため池、用水路を含む農地等には多くの動植物が生息していることから、地域住民や地域協議会、ボランティア団体、小学校等と連携しながら自然環境や生態系の保全、緑の基本計画、農地の多面的機能に配慮し生物調査を行う。調査等の蓄積したデータについては、企画展や特別展等の展示を行うことで生態系の理解や保全、自然環境や生態系の学習、情報の収集・発信を行う。また、万葉集で謳われている植物や希少な植物等を考慮した整備をボランティア団体と協働で継続的に進める。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	—					
	活動指標	① 研修会の参加回数(回)	9	9	9	9	
		② 調査回数(回)	6	6	6	6	
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		4,526	4,528	4,528	4,528	
	歳入(b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		国県補助金等その他	0	0	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		4,526	4,528	4,528	4,528	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	里山林機能回復整備事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	産業振興課	課長名	北野 哲也	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち			
		施策	8	人と自然が共生できる地域づくり			
		今後の取組	5	緑の保全の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	農業振興事業費					
7	事業開始年度	平成	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	里山林整備団体・森林組合					
9	事業の目的	住民の自主的な参加等により、里山林の保全・整備及び活用の促進を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	3	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		県・整備団体との連携を蜜に行い今後も継続し、事業を実施するが、獣害に強い里山づくり事業が、平成30年度をもって終了する予定である。					
11	事業の内容(手法)	県より補助を受けて、里山林の整備を希望する所有者と整備活動を行う団体とを森林バンクに登録する事務を行い、双方合意の上で整備協定を手配し、里山林の回復を図る。林業の不振から適切な管理が行われていない森林を間伐し、森林の公益的機能の維持増進を図る。					
		平成30年度からの拡充・変更内容 (予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度	30年度	31年度	32年度	
			(総計目標値)	(見込み)	(見込み)	(見込み)	
	成果指標	機能回復面積 (ha)	0.66	0.66	0.66	0.66	
	活動指標	① 里山林整備団体	2	2	2	2	
②							
13	コストの推移 (単位：千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費) (a)		115	115	115	115	
	歳入 (b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他	144	144	144	144	
(a) - (b) = 一般財源		-29	-29	-29	-29		
14	増額理由	継続事業					
備 考							